



質疑応答（第1分科会）

津田 菜摘 氏（同志社大学 助教）	……	P. 1
千葉 伸彦 氏（東北福祉大学 専任講師）	……	P. 3
吉澤 寛之 氏（岐阜大学大学院 教授）	……	P. 5
蒔 田 純 氏（弘前大学 専任講師）	……	P. 7
井上 雅彦 氏（鳥取大学大学院 教授）	……	P. 9

※ご質疑・ご意見をお受けしたものに対し、ご回答を掲載いたしております（時間都合で未回答となった分を含む）。

発表者

津田 菜摘 氏（同志社大学 助教）

ご質問

(ご意見)

- 非常に重要なお研究であり、ACTによる介入を保護者が受けることが、どのくらい効果的であるか、今後のご研究で明らかにされることを楽しみにしています。
- 例えば、介入群の保護者へのフォーカスグループインタビューなどで、精神疾患に関する話題をオープンに話せるか等質的に効果を測ることもできるのではないかと思いました。

ご回答

貴重なご意見をいただきありがとうございます。

今回の研究結果では、介入種別以上に介入効果の有無を決定している変数があることが予想されます。教育群・ACT群ともに実施している内容にグループディスカッションがありますので、おっしゃるとおりフォーカスグループインタビューなどにより質的に評価していくことが、効果を高めるヒントになると感じました。今後の研究で参考にさせていただきます。

発表者

津田 菜摘 氏（同志社大学 助教）

ご質問

- ①これまで、効果のある「接触」のような関りは、余り使われないのでしょうか？
「接触」の要素を含む体験は良いと思いますが、どうでしょうか。
- ②この研究はどこで行われたのでしょうか？ こういったスティグマは（国内でも）文化的な違いが影響するように思いますが、国内では同様と捉えてよいのでしょうか？

ご回答

貴重なご指摘をありがとうございます。

- ①接触のような関わりは多くの研究でも使用されています。直接接触を求めているもの以外にも、映像などの形で間接的に接触を行う研究も多いです。
ただし、接触を取り入れるにも条件が多くあるなど、組み合わせるにはコストがかかるという限界点があります。
そこで、今回は講義形式にこだわって研究を行いました。
今後の研究では考慮させていただきます。
- ②本研究は関西・関東圏外の地方で実施されました。
確かに、地域の文化的な違いから生じる影響はあるかもしれません。
しかし、実際には比べていないので介入効果に違いが生じるかは不明です。

発表者

千葉 伸彦 氏（東北福祉大学 専任講師）

ご質問

(ご意見)

- 研究対象となる保護者のサポートとして、県議会議員や教育委員会との面談も行って、実践的な取組をされているのがとても良いと思いました。
- 今後も学校や行政への働きかけなど医療ケア児のための政策提言につながることを期待します。

ご回答

ご意見ありがとうございました。

各都道府県においてもようやく就学・通学に関して前向きな姿勢が見受けられるようになっております。

ただ、保護者が超えるべきハードルは非常に多く、今後もサポートが必要となる場面は発生するものと予想しております。今後は医療的ケア児等支援センターが「就園」のみならず「就学（通学）」も併せて支援すべきタイミングとなっていると考えます。

今後もより実践的な取り組みを進める所存です。

発表者

千葉 伸彦 氏（東北福祉大学 専任講師）

ご質問

（ご意見）

- これだけ実践的に活動されてきて、家族会にもコンタクトを取られてきたなかで、それでもママ・お母さんだけが対象ということに、だれも疑問を抱いてこなかったことは事態の深刻さを却って表わしているように思いました。本当にお母さんがひとりで抱えてこられたのだなあということを痛感させられました。
- お父さんを巻き込んでいくようなことに関わって、これから展望があれば、お聞かせください。

ご回答

ご意見ありがとうございました。

すでに先行研究では、重症心身障害児の母親には出生直後より医療職から「母親の役割」を背負わされているとの報告があり、母親が抱える負担の大きさは問題となっておりました。

現在では、父親も含めて医療的ケア児のケアを行っている家庭が見受けられることから、通学についてどのようにお父さんが関わるか、今後は何らかの明るい兆しがあるのではないかと推測しております。

また、父母それぞれの役割分担や父親自身に焦点を充てた研究や実践は少なく、今後はそのようなテーマで取り組む必要について実感しているところです。

発表者

吉澤 寛之 氏（岐阜大学大学院 教授）

ご質問

○こうしたシステムを学校へ導入していく場合、自治体・教育委員会の協力が必要であったかと思うのですが、どのように説明、説得されましたでしょうか。

ご回答

○最初の段階では、複数の自治体の校長会で依頼をして、希望する学校を対象に既存システムを質問紙アンケートにより実施しました。

その後、既存システムをiPad端末で実施できるようWebアンケート化して、岐阜市教育委員会に提案し、受託研究の位置づけで全小中学校を対象にアセスメントを実施しました。3年間の受託研究により、ビッグデータの分析から生徒指導事案の予測性が確認され、結果のフィードバックとコンサルテーションの仕組が完成しました。

その成果を踏まえて、他の複数自治体の教育委員会に。既存システムとVRアセスメントおよび非認知能力ゲームの新規システムを紹介して、自治体ごとで全小中学校もしくは希望する学校を対象に導入に至りました。

○自治体へは既存システムの概要として以下を説明いたしました。

- 子どもの問題行動のしやすさに関する予防教育に有効な詳細情報を提供できる。
- 情報は客観性、信頼性、妥当性が高いため小中連携における一貫した指導の有効情報となる。
- 学級単位、学校単位での情報も集約するため、クラス編成や学級経営に役立つ情報として位置づけられる（子どもの行動決定タイプの組合せによるいじめが起きやすい困難学級の予測等）。
- 情報と対応させた具体的な解決方法や指導方法に関するアドバイスが提供できる。

（次葉に続く）

ご回答（続き）

- 前回からの変化の情報があるため、緊急を要する要支援度の高い子どもが明確になる。
- 前回と結果を比較できるため、学校からの指導や支援の効果を確認できる。
- 個票の結果で、前年度に教育委員会へ報告された生徒指導事案を確認できる（問題行動の起きやすさの予測等）。
- 中学校 1 年生の結果を前年度と比較することで、中 1 ギャップの状態を確認できる。

○ また、新規に開発したシステムの概要として以下を説明いたしました。

- 小学校低学年の早期から、内面の問題を把握して、早期介入できる。
- 外国籍児童など、日本語が得意でない子どもも回答できる。
- VRを用いることで、実際の学校場面で子どもがとりそうな行動を把握できる。
- 学校場面でのトラブルの対応方法に関する教育にも活用が可能である。
- 13歳未満で使用できる単眼VRを採用し、視力など身体への影響に十分配慮している。

発表者

吉澤 寛之 氏（岐阜大学大学院 教授）

ご質問

- 最初のアセスメントとコンサルテーションを行ったあとのアセスメントは、また違うことを考えなくてはならないのではないのでしょうか。
- 今のコンサルテーションを見せていただいた感じでは、学力テストの過去問を繰り返すことで学力テストの点数が上がるに似たような効果ではないのでしょうか。実際というよりは、調査への対応が向上した効果ではないかという懸念があるのですが、いかがでしょうか。

ご回答

2回のアセスメントの前後で全体的に改善が認められるということはなく、コンサルテーションの前後の変化を実施校と非実施校とで比較した結果から、前者のみに悪化の抑制が認められるという結果になりました。

また、教員にアンケートを実施して、積極的にアセスメントの結果を活用している学校ほど、アセスメント結果に改善が認められるという結果になっています。

さらに、要支援度の高い児童生徒においては、支援度が高い状態が維持される傾向にあります。

そのため、ご指摘のアセスメントにおいて学習効果が生じている可能性は低いと考えられます。

発表者

蒔田 純 氏（弘前大学 専任講師）

ご質問

○会社のコーポレートガバナンスにおいても、株主との対話、株主自身が望むことを表明するといった「主権者＝株主」のふるまいが非常に重要だと考えております。株主が正義を望まない場合、社会を震撼させるような不祥事が起こるようになると思います。

今日的には、サステナビリティ、あるいはESG投資といった形で株主・投資家に対して“社会・文化的文脈”の中で道徳的なふるまいを求める動きも出てきています。ただし、文脈だけではなく「教育」が重要だと思っています。

○主権とは大きな権力でもありますので、行使が大事である一方、行使に際して、「何を望むのか」は非常に重要だと思います。その意味では、主権者教育というテーマの中には道徳という基礎が不可欠で、必ずセットで行われるべきと思うのですが、先生のお考えをご教示ください。

ご回答

ありがとうございます。

仰る通り、主権者教育を行う上で道徳という観点は非常に大切であり、セットで行う必要があると思います。私が行う出前授業でも、今後、そのような視点を盛り込めるよう、努力してまいりたいと思います。

一方で、私の出前授業は科学的な研究の一環として行っている側面もあり、今回発表させていただいたのは、その分析の一部です。道徳的要素を科学的に分析するには容易ではなく、今回の研究ではそれを想定してはいません。これについては、今後の課題といたしたいと存じます。

発表者

蒔田 純 氏（弘前大学 専任講師）

ご質問

○ご報告のなかにあった、アニメ動画（URL等）・書籍（書名・コード等）を教えてください。

ご回答

ありがとうございます。以下の通りです。

■動画「経済政策版ポリポリ村のみんなしゅしゅぎ」

- 前半 < <https://youtu.be/liEJFgxWSuU> >
- 後半（キャンディさん勝利ver.） < <https://youtu.be/KemEZV-zZqU> >
- 後半（デイトさん勝利ver.） < <https://youtu.be/XvYI0dAfGIE> >

■絵本

蒔田純『ポリポリ村のみんなしゅしゅぎ：絵本で選挙を体験しよう』
（かもがわ出版、2021年）
ISBN-10：4780311608

発表者

井上 雅彦 氏（鳥取大学大学院 教授）

ご質問

- 地域における自閉症スペクトラム児の早期発見には自治体と、乳幼児健診と子育て支援（保育所）の連携と一連の支援が構築され、素晴らしいと思います。
- JASPERは興味関心があります。ぜひ、ライセンスを取得して子育て支援に役立ちたいと思いました。どのような方法で取得できるのか教えていただきたいです。
- 子育て支援、特に、ペアレントトレーニングは必要とされますが、なかなか継続実施するのは難しいと考えています。そのことも、良い方法があれば、ご教示をお願いいたします。

ご回答

ご質問ありがとうございました。

本発表内容には直接関連はありませんが、ライセンスについての情報はBRIDGEこころの発達研究所 < <https://bridge62.jimdo.com/> > などにお問い合わせください。

ペアレントトレーニングについてはペアレントトレーニング研究会 < <https://parent-training.jp/> > などの主催する研修、大会などでも情報発信されていますので、ご参考にいただければと思います。